

卒業論文

レオニード・デシャトニコフ編曲

《ブエノスアイレスの四季》のオリジナリティ

齋藤みのり 愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻（音楽学コース）

要旨

《ブエノスアイレスの四季 Las Cuatro Estaciones Porteñas》は、アストル・ピアソラ Astor Piazzolla (1921-1992) が作曲した傑作の一つであり、今日コンサートでよく演奏される。原曲どおりのキンテートの編成のみならず様々な編成の編曲でも演奏され、日本のコンサートでは近年しばしば、レオニード・デシャトニコフ Леонид Десятников (1955-) による《ブエノスアイレスの四季》の編曲が取り上げられている。デシャトニコフによる編曲は独奏ヴァイオリンと弦楽合奏の編成に変更され、さらに他の編曲とは異なり、アントニオ・ヴィヴァルディ Antonio Vivaldi (1678-1741) の《和声と創意の試み Il cimento dell'armonia e dell'inventione》より1番から4番、つまり《四季》を引用した作品になっている。デシャトニコフによる編曲の先行研究ではヴィヴァルディの《四季》の引用部分が注目され、細かく分析されている。しかしそれ以外の部分、すなわち原曲であるピアソラの《ブエノスアイレスの四季》の部分はどのように編曲されているのかがあまり言及されていない。それゆえ本論文ではピアソラによる原曲とデシャトニコフによる編曲を比較、分析を行うことで、デシャトニコフが編曲した《ブエノスアイレスの四季》においてヴィヴァルディの《四季》の引用部分と他にどのような相違点があるのかを明らかにし、デシャトニコフによる編曲のオリジナリティを見出すことを目的とする。

本論文は、全2章から構成されている。

第1章では、数多くの編曲を持つ《ブエノスアイレスの四季》について論じる。第1節では、原曲であるピアソラの《ブエノスアイレスの四季》が作曲された経緯についてまとめる。作曲し始めた当初ピアソラは《ブエノスアイレスの四季》としては作曲しておらず、劇の付随音楽として1965年に〈ブエノスアイレスの夏〉を作曲し、1970年までに残りの〈ブエノスアイレスの秋〉、〈ブエノスアイレスの冬〉、〈ブエノスアイレスの春〉を完成させた。第2節では、

複数存在する《ブエノスアイレスの四季》の編曲を紹介し、デシャトニコフによる編曲の《ブエノスアイレスの四季》が日本で上演される際の編曲者の扱いに関して言及する。様々な音楽家が《ブエノスアイレスの四季》を編曲しており、確認できているだけでも14の編曲が存在しているが、デシャトニコフによる編曲の《ブエノスアイレスの四季》を上演する日本のコンサートのチラシの大半は編曲者の記載がないものであった。第3節では、デシャトニコフが編曲した《ブエノスアイレスの四季》に焦点を当てて編曲者の基本的事項を整理し、編曲することになった経緯や編曲の特徴について確認する。デシャトニコフはロシアでは映画音楽作曲家として成功しているが、映画音楽にとどまらず幅広いジャンルを手がけている作曲家である。ヴィヴァルディの《四季》とピアソラの《ブエノスアイレスの四季》を組み合わせたギドン・クレーメル Gidon Kremer (1947-) のアイデアを契機として、デシャトニコフは《ブエノスアイレスの四季》を独奏ヴァイオリンと弦楽合奏の編成に変更したうえで《四季》のフレーズを引用している編曲を生み出した。

第2章では、ピアソラが作曲した《ブエノスアイレスの四季》とデシャトニコフが編曲した《ブエノスアイレスの四季》の総譜を比較しながら楽曲分析を行う。第1節では、原曲と編曲を比較して分析を行った結果をそれぞれの季節ごとに示す。〔形式〕、〔区分〕、〔小節番号 (小節数)〕、〔調性〕、〔テンポ〕を比較し、その結果を表にした上で譜例を用いながら変化している箇所を指摘する。第2節では、《ブエノスアイレスの四季》の4曲を総合的にみて、デシャトニコフがもたらした変化について論じる。ヴィヴァルディの《四季》の引用、編成の変更による変化、つまり弦楽器の音色が活きる奏法の追加、演奏者を意識した変化について説明し、これら3点の変化がデシャトニコフによる編曲の《ブエノスアイレスの四季》のオリジナリティを生み出している主要因だと結論づけた。

この結論からデシャトニコフによる編曲の《ブエノスアイレスの四季》が上演されるコンサートの大半のチラシに編曲者が記載されていない現状は、聴衆にも編曲者にも親切ではないと考える。なぜなら本論文で明らかになったとおり、《ブエノスアイレスの四季》は編曲が複数存在するうえ、特にデシャトニコフによる編曲はピアソラの原曲にはないオリジナリティがある編曲であるた

めだ。したがってデシャトニコフによる編曲の《ブエノスアイレスの四季》は、編曲者が聴衆に明示されるべき作品と言えよう。